



## 「新年のことば」

～主任牧師 大川 従道～

新年明けましておめでとうございます。今年の上から与えられた標語は素晴らしい聖句です。牧師が何ヶ月もかけて祈り瞑想したHeavenly Visionとってよい。エレミヤ書31章17節『あなたの将来には希望がある、と主は言われる。』

There is hope for your future, says the Lord.

「おい、と言ったが、返事がない」。夏目漱石の『草枕』はこの書き出しで始まる。いかにも、しゃれている。(外山滋比古流・知的人生の生き方)ところが、主語がない。だれが言ったのかわかり切っているから、言わないのである。この小説には、こういう主語の出ていない文章が多い。冒頭から何ページもの間、ひとつもない。

昔、アメリカの「タイム誌」でたたかれた。ところが、日本人は、平然としてその言いがかりを聞き流した。第一人称はなくていい。ない方がいいことが多い。個人の権利がやかましく言われるようになって“去私”(きょし)の心は健在であるように思われる。アメリカなどが真似しようとしているらしいが、ひとの国のことを、わけもわからずに悪しざまにケナスようでは、バイクはできてハイクは作れない。

大川牧師は、75年の間で初めてXマスを病床で迎えた。You Tubeで礼拝出席はすばらしかったが、主の臨在の真中で礼拝するのは違う。

聖ルカ病院の8階の窓から外をみると、みごとな大木から大きな葉が落ちていく姿が美しい。あれは楓(かえで)の葉であろうか、みごとに紅葉して、強い秋風に飛ばされて美しく舞う姿。それは、自分が枯れた葉のように落ちていく姿に乗せて吟じてみた。『枯れた葉が、なお生きるぞと、空を舞う』

8階の高窓から観察していると、かなりの多量の黄色い葉が、空を舞うと花にも見えたし、蝶にも見えたし、鳥にも見えた。目を凝らしてみつめていた。それが上記の句だ。ボクは死なない。もう少しお役に立ってから召される予定である。私にも、すべての人に「希望」がある。枯れても「風(聖霊)」によって変えられる。冒頭の聖句の主語は「主なる神」である。「あなたには希望がある!!」。すべての人が自覚して、新しい希望をもって前進しましょう。

Think Big, Believe Big, Know you have a Big God. (ケネス・ヘーゲン述)